

『 義歯の咬合とデジタルデンチャーを考える 』

超高齢社会を迎え高齢者歯科医療と共に在宅・訪問介護の歯科医療も増加傾向になって来ているようである。歯科医療ニーズの動向によると、在宅歯科医療の摂食嚥下といった高齢者歯科医療の充実が求められ、義歯の質的需要が高度化して来ています。また、歯科医療現場も高度に発達した歯科医療技術の進歩により、歯が喪失した無歯顎者の疾病構造も著しく変化してきていると思われまます。義歯製作もより簡便で、客観的な根拠から効率的な“二義的人工臓器義歯“の製作システムと供給体制が求められています。

今回は義歯の咬合について考察し、無歯顎臨床で最も重要な要素である印象採得・咬合採得から得られた模型を分析し正確に咬合器装着を行い、客観的な人工歯排列と咬合について講演する予定です。

無歯顎補綴の仮想咬合平面の設定基準は、歯冠修復・インプラント補綴も同様に大切である咬合平面のガイドラインについて考察したいと考えています。

症例を担当する歯科医師の診査診断による治療計画を基に、歯科技工士・歯科衛生士も共有し、各ステップを慎重に進められることが重要であります。印象体を大別すると、概形印象体と機能印象体に分類され模型上に表現された組織を十分に熟知し臨床模型の分析及び解析する事が重要な鍵となります。

そこで仮想咬合位 (Virtual Intercuspal Position) と仮想咬合平面 (Tentative Occlusal Plane) の考察とガイドラインが重要であります。

解剖学・発生学・生理学から異なる臨床症例に対する咬合平面の設定と咬合彎曲の与え方について生理学的、力学的に考慮した適切な部位に人工歯排列を行い、筋組織と口腔内に調和した咬合と咬合様式を付与することが重要であります。

最後に時間が許せばデジタルデンチャーについて考察し、時間の許す限り聴講して戴いた皆様と共に有意義な講演会になれば幸いです。